

サガン鳥栖支援 アクションプラン

Ver.2012

Contents

- ◇鳥栖市とサガン鳥栖
まちづくりとサガン鳥栖 . . . 3
サガン鳥栖があることの効果 . . . 5
- ◇これまでのサガン鳥栖支援
サガン鳥栖に対するこれまでの支援 . . . 7
- ◇2012 シーズンのサガン鳥栖支援
サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 要旨 . . . 12
サガン鳥栖支援のスタンスとビジョン . . . 13
サガン鳥栖に対するこれからの支援の前提 . . . 14
新たなサガン鳥栖支援 . . . 15
継続的サガン鳥栖支援 . . . 20
取組の進行管理 . . . 22

平成 24 年 1 月 ホームゲーム集客支援本部

鳥栖市とサガン鳥栖

- ◇ 「まちづくり」とは、「地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近な居住空間を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、『生活の質の向上』を実現するための一連の持続的な活動」と定義されています。即ち、一定の地域に住む人々が自分達の生活を支え、便利に、より人間らしく生活してゆくための共同の場が「まち」であり、それをつくるとは、施設、土木・建築的なハードウェアの整備をいうのだけではなく、まちを動かす仕組みや財政、自治組織、市民意識などのソフトウェアをも含んでいることです。
- ◇ まちづくりの根底をなすのは「ヒト」であり、「まちづくりに必要なのは市民の参加であるとされ、「まちの発展のためには住民の暮らしと常に一体化しなければ、地域に対する誇りが生まれず、誇りが生まれずとまちは発展しない」とされています。
- ◇ こうした中で、スポーツを核とした「まちづくり」を志す地方自治体が増えているのは、①スポーツが健康につながり、②「する」「見る」あるいはボランティアなど、いろいろな参加が可能で、③人とのコミュニケーションがとりやすく、互いが感動という共通の体験を共有し、相互理解を深め協力しあうなど様々な関係を築くためのきっかけや要素が多分に含まれている、という特性をもっているからです。
- ◇ スポーツ振興基本計画は、スポーツの社会的な意義のひとつとして、「スポーツを通じて住民が交流を深めていく事は、住民相互の新たな連携を促進するとともに、住民が一つの目標に向かい努力し達成感を味わうことや地域に誇りと愛着を感じることにより、地域の一体感や活力が醸成され、人間関係に希薄化などの問題を抱えている地域社会の再生にもつながるなど、地域の連帯感の醸成に資する」ことを掲げています。
- ◇ 一方、Jリーグは、「地域に根ざしたスポーツクラブ」として、ホームタウンの市民・行政・企業が一体となった支援体制を持ち、その町のコミュニティとして発展するクラブを位置づけており、Jリーグが、スポーツエンターテイメント以上の価値を持つのは、Jクラブが地域に根ざしながら、ホームタウンのシンボルとして存在することにあるとしています。
- ◇ このJリーグの理念を踏まえ、サガン鳥栖は、「人づくり・まちづくり・夢づくり」の理念のもと、Jリーグでの成績に固執することなく、スポーツ振興、地域との一体化、地域貢献を掲げており、Jリーグの試合をする、あるいは試合に勝つことだけがJクラブの存在意義ではなく、地域に貢献し、地域に受け入れられてこそJクラブの意義と位置づけています。

◇ 鳥栖市は、「まちづくりの主役は市民」を基本理念とし、“まちの魅力を高め”、“より良いまちを次世代に引き継ぐこと”をまちづくりの方向性として掲げ、鳥栖に暮らす全ての人々がまちづくりにチャレンジしていくことを、第6次鳥栖市総合計画に位置づけています。

◇ 以上を総括すると、鳥栖市は、

まちの魅力を高め、より良いまちを次世代に引き継ぐことを、まちづくりの方向性と位置づけており、

まちづくりは、鳥栖に住むことを誇りに思う市民によって、まちの活力と魅力を高め、『生活の質の向上』を実現することと捉えています。

一方、Jリーグの理念のもと鳥栖を活動拠点とするサガン都市は、鳥栖市にとって重要なソフトウェアであり、まちづくりに必要である市民が誇りをもつことを最もシンボリックに表す存在です。

鳥栖市における最もシンボリックな存在であるサガン鳥栖。『サガン鳥栖のあるまちに暮らす幸せ』を、鳥栖に暮らす多くの方々に実感していただくことは、鳥栖を誇りに思う気持ちが広がっていくことにつながります。

『サガン鳥栖のあるまちに暮らす幸せ』を実感する市民の皆さんが増えることは、それだけ、鳥栖に暮らすことを誇りに思う市民が増えることであり、それは、まちの活力と魅力を高めるための原動力となります。

ここに、鳥栖市が、サガン鳥栖を支援する最大の意義があります。

さらに、サガン鳥栖が、Jリーグの理念に基づき取組みを進めている、スポーツ振興、地域との一体化、地域貢献は、鳥栖市が第6次総合計画に位置づける「リーディングプロジェクト」「九州をリードするまちづくりプロジェクト」「多様な文化がいきづくまちづくりプロジェクト」と一体をなしており、ここに、鳥栖市とサガン鳥栖がパートナー関係のもとに、相互の効果をさらに高めていく取組みを行う意義があります。

◇ サガン鳥栖は、地域愛の源泉であり、鳥栖のまちづくりに様々な効果をもたらすことが大きく期待できるファクターであり、鳥栖市民にとってかけがえのない財産です。この鳥栖市の財産であるサガン鳥栖を、鳥栖市民のシンボルとして、鳥栖市の文化資本として、鳥栖の未来へ確実に引き継いでいく事が、今の鳥栖市の責務です。

サガン鳥栖があることの効果

意識の活性化・地域の活性化

- ◇ 家庭や地域の中で、子どもからお年寄りまで「サガン鳥栖」という共通の話題が増え、郷土チームを持つ喜びを分かち合いながら、世代間交流や地域間交流が深まるとともに、市全体に活気が生まれること
- ◇ 試合を見て楽しむだけでなく、ボランティアとしてチームを支えるなど、地域の中で自発的なボランティア活動が増えること
- ◇ 若者をはじめ、地域の人々が自分の地域やまちづくりを考えるきっかけとなること

スポーツ振興

- ◇ 日々の暮らしの中でスポーツに親しみ、楽しめるというスポーツ文化が育まれること
- ◇ スポーツを通じた市民の健康意識の向上や青少年の健全育成につながる

地域間交流

- ◇ 対戦チームのサポーターなど他県からの観戦客が鳥栖市へ訪れることになり、新たな地域間交流が生まれること

シティセールス・経済波及効果

- ◇ ホームスタジアムがあるまちとして、メディアへの露出も高まり、全国的な知名度がさらに上昇すること
- ◇ 年間 20 試合程度のホームゲームが開催されることで、地域経済に波及効果をもたらす可能性を秘めていること

これまでの
サガン鳥栖支援

サガン鳥栖に対するこれまでの支援

サガン鳥栖に対する鳥栖市の支援は、プロサッカー誘致の取組から、悲願のJ1ステージを実現した現在まで、大きく3つの段階に分けて考えることができます。

- 第1期 : Jクラブ誘致のための基盤整備
⇒ 鳥栖スタジアム及び鳥栖スタジアム北部グラウンド等のハード整備

- 第2期 : Jクラブ存続のために必要な直接支援（公金直接投入）
⇒ 民間企業への出資、施設使用料の減免やユニフォームスポンサード

- 第3期 : Jクラブ維持のために必要な間接支援（側面的支援）
⇒ 集客に関する側面的支援として、人的及び金銭的支援

- ～ 第1期 ～ Jクラブ誘致のための基盤整備
- ～ 第2期 ～ Jクラブ存続のために必要な直接支援（公金直接投入）

★ 平成3年10月、佐賀県サッカー協会がPJMフューチャーズの誘致決定、翌平成4年6月、佐賀プロサッカーホームタウン誘致委員会及び、プロサッカーホームタウン誘致鳥栖委員会が設立される。一方、鳥栖市は、JR鳥栖駅前の旧ヤード跡地の利活用を検討しており、地域活性化策の起爆剤として大規模集客施設の可能性を模索していた。

この流れが一つになり、平成5年6月、鳥栖市議会において「プロサッカーホームタウン誘致促進に関する決議」を採択し、平成8年6月に鳥栖スタジアムが完成する。その後、平成8年11月、PJMジャパン撤退表明、平成9年1月、(株)佐賀スポーツクラブ解散、平成9年2月、サガン鳥栖は発足、平成9年9月、鳥栖市議会においてホームタウン受け入れに関する決議採択、平成10年7月、(株)サガン鳥栖設立、平成10年9月、日本サッカー協会理事会において、J2加盟を承認、平成14年9月、鳥栖市議会においてサガン鳥栖ホームタウンとしての支援の決議採択、平成16年12月、(株)サガンドリームス設立、平成17年2月、サガンドリームスの営業権が正式に(株)サガンドリームスへ移行、現在に至る。

★ 平成8年の鳥栖スタジアム完成以降、鳥栖市は一貫して、鳥栖スタジアムの適切な維持管理に努め、Jクラブに対して、施設の優先使用を行ってきた。他方、専用練習場の確保にまでは至らなかったが、鳥栖スタジアム北部グラウンドの建設を行い、週5日を確保できる練習場として、Jクラブに対して優先使用を認めるとともに、平成13年及び平成15年の当時のJクラブの運営状況に鑑み、時限的に施設使用料の減免を行うとともに、平成18年3月には、鳥栖スタジアムにC&R社からの寄付を受けて、LEDビジョン（大型映像装置）を設置した。

◇ 鳥栖スタジアムの建設及び維持（平成8年建設）

- ◇ スタジアム建設費 69.5億円（用地費 30.8億円）
- ◇ スタジアム維持管理費 年間約1.3億円（H8～H23の16年間で累計、約20.8億円）
- ◇ ホームゲーム当日及びホームゲーム2日前の優先使用（有償）
- ◇ ホームゲーム前日準備の無償使用 ◇ LEDビジョン設置（設置費3千万円を市負担）

◇ 鳥栖スタジアム北部グラウンドの建設及び維持（平成12年工事）

- ◇ 北部グラウンド工事費 1.3億円
- ◇ 北部グラウンド維持管理費 年間約1.5千万円（H12～H23の12年間で累計、約1.8億円）
- ◇ 毎週火曜日から土曜日午前中までの優先使用（有償）＋7時までの延長使用（有償）

◇ スタジアム使用料減免及びユニフォーム広告支援

- ◇ スタジアム使用料減免（H13：約2,000万円、H15：約2,000万円）
- ◇ ユニフォーム広告支援（1,000万円）

～ 第3期 ～ Jクラブ維持のために必要な間接支援（側面的支援）

平成16年2月、鳥栖市役所のサガン鳥栖支援体制として、副市長を本部長とする「ホームゲーム集客支援本部会議」を設置。サガン鳥栖ホームゲームに関する具体的集客支援の取組を実施。集客支援に関連し、「地域交流推進事業費」年間約400万円を予算措置し、集客支援に関する取組を充実するとともに、市予算外取組を積極的に展開。さらに、2010シーズンより、市予算外取組の効果的かつ効率的取組を体系化した「サガン鳥栖支援アクションプラン」を策定し、サガン鳥栖支援の質の充実と量の拡大を図る。

- ◇ 平成16年、ホームゲーム集客支援本部会議設置（地域交流推進事業・その他集客支援）
地域交流推進事業費（H19：500万円、H20～H22：420万円）
- ◇ 平成21年、ホームゲーム集客支援本部会議において「サガン鳥栖支援アクションプラン2010」を策定。市予算外活動の取組を体系化（2010シーズン取組に関する支援換算額は約1千万円）

（参考）2010シーズン 市予算外活動 支援換算額

取組項目	支援換算額	摘要
チケット購入		
年間パスポート購入	8,596,500	
B S チケット購入	729,000	
市職員応援デーの実施（ホームゲーム）	321,000	
市職員応援デーの実施（アウェイゲーム）	294,750	
広報		
市報による広報		年6回掲載
サガン鳥栖応援ポロシャツ着用	1,334,400	購入数417着
管理職による街頭告知活動	77,254	
職員有志による告知活動	42,693	
ボランティア活動		
ホームゲームによるボランティア活動	282,587	
新規採用職員によるボランティア活動	1,366,176	
支援額合計	13,044,360	

* 次のような取組も、集客支援本部マターで実施



JR鳥栖駅前のサガン鳥栖応援看板



JR鳥栖駅前にはチームマスコット“ウィントス”



高校生が作ったサガン鳥栖チームエンブレム

- ★ 平成 20 年 1 月、鳥栖スタジアムに係るネーミングライツ契約を、B A社と鳥栖市で締結。年間 3,150 千円。この契約額から、仲介である(株)サガン・ドリームスに対し成功報奨を支払い、さらに企業特典事業として、市民還元事業を展開。

- ◇ 第 1 期 平成 20 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日 ◇ 契約額 3,150 万円／年間
 (1 年目：市受入額：1890 万円 ・ 企業特典費：630 万円 ・ S D報酬・看板：630 円)
 (2 年目：市受入額：1890 万円 ・ 企業特典費：630 万円 ・ S D報酬・看板：630 円)
 (3 年目：市受入額：1890 万円 ・ 企業特典費：630 万円 ・ S D報酬・看板：630 円)
 ◇ 第 2 期 平成 23 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日

- ★ 平成 16 年 9 月、県内の全市町村と各種団体等で構成される佐賀県プロサッカー振興協議会を設立。鳥栖市は、同協議会へ補助金を交付し、集客に関する取組みを積極的に展開するとともに、平成 20 年度からは市職員 1 名を派遣。

- ◇ 平成 16 年、佐賀県プロサッカー振興協議会設置（通称：県プロ）
 鳥栖市補助金（H16：100 万円、H17~H18：500 万円、H19~H23：200 万円）
 鳥栖市職員派遣（H20~H23 まで、1 名を派遣）

- ★ 平成 20 年度、クラブ経営の安定化を図ること、県内市町村の同調の呼び水とすることをきっかけに、鳥栖市及び佐賀県が(株)サガン・ドリームスへ 300 万円を出資。

- ★ 平成 22 年 4 月、(株)サガン・ドリームス、財団法人鳥栖市地域振興財団及び鳥栖市の 3 団体で、サガン鳥栖支援のさらなる効果的かつ効率的取組を推進することを目的に、「サガン鳥栖支援に関する合意書」を締結。本合意書において、鳥栖市は、市民への説明責任を果たすという基本論を踏まえながら、サガン鳥栖は地域の宝であるという位置づけのもと、できる限りのサガン鳥栖支援を行いホームタウンとしての役割を果たすことを明記。この取組の中で、3 団体による「サガン鳥栖支援連絡調整会議」を位置づけ、取組の連携協調を促進するとともに、鳥栖スタジアムをはじめとする施設の優先使用等を認める「施設利用ガイドライン」を策定。

- ★ 2010 シーズン（平成 22 年）に、九州の 5 つの J クラブが J 2 ディビジョンにカテゴライズされることに伴い、平成 21 年、九州の 5 つのホームタウンが、ホームゲーム集客及び地域間交流を目的として、「九州 J リーグホームタウン連携会議（愛称：九州 JHT）」を発足。2011 シーズンは、九州 5 クラブの連携「九州だ J！」と共同歩調のもと、各種集客施策を展開。



2012 シーズンの サガン鳥栖支援

サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 の要旨

◇ 鳥栖市のサガン鳥栖支援の基本的スタンスとビジョン

◇ サガン鳥栖に対するこれからの支援の前提

◇ 新たなサガン鳥栖支援（サガン鳥栖アクションプラン Ver.2012 からの新規取組）

- ◆ 鳥栖スタジアム改修事業
- ◆ 鳥栖スタジアム収容人数拡大事業
- ◆ クロスロードサガン鳥栖応援事業
- ◆ サガン鳥栖関連シンポジウム事業
- ◆ 専用練習場・クラブハウス整備事業
- ◆ サガン鳥栖支援トップセールス事業
- ◆ サガン鳥栖効果調査事業
- ◆ サガンエンブレム掲揚事業

◇ 継続的サガン鳥栖支援（サガン鳥栖アクションプラン Ver.2010 からの継続取組）

- ◆ 市職員によるサガン鳥栖支援
- ◆ 地域交流推進事業及びネーミングライツ企業特典事業
- ◆ (株)サガン・ドリームス及び (財) 鳥栖市地域振興財団との連携事業
- ◆ 佐賀県プロサッカー振興協議会との連携事業
- ◆ 九州 J リーグホームタウンとの連携事業
- ◆ 新規採用職員によるサガン鳥栖支援

◇ 取組みの進行管理

- ◆ 原則、4 半期毎（11 月、2 月、5 月、8 月）にホームゲーム集客支援本部を定期開催し、取組みの進行管理を行います。ただし、必要に応じた緊急開催もあります。
- ◆ 「新たなサガン鳥栖支援」及び「継続的サガン鳥栖支援」の 2 つの取組の進捗管理を行います。

◇ 取組みのイメージ

取組の質の向上
支援の輪の拡大

- P 計画 サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 の策定
- D 実行 サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 の取組実行
- C 評価 サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 の反省
- A 改善 サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 の改善策検討
- P 計画 サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2013 の改訂

基本的スタンス

サガン鳥栖支援アクションプランに取り組むにあたり、次のことを、鳥栖市の基本的スタンスとします。

- ◇ 鳥栖市は、プロサッカーチーム「サガン鳥栖」のホームタウンです
- ◇ 鳥栖市は、プロサッカーチーム「サガン鳥栖」に対して、Jリーグの理念に則り、公平性・平等性・透明性を基本とした「できる限りの支援」を行います
- ◇ 支援内容については、市民への説明責任を果たすことが基本です

ビジョン

- ◇ 鳥栖市は、サガン鳥栖支援の具体的取組みを率先的に行い、その取組みをサガン鳥栖支援に関係する市民、団体等に提案し、「自分の立場でできるサガン鳥栖支援」を実行していただくことで、サガン鳥栖支援の輪を拡げていきます
- ◇ 鳥栖市は、プロサッカーチーム「サガン鳥栖」の支援にあたって、財団法人鳥栖市地域振興財団、佐賀県プロサッカー振興協議会、(株)サガンドリームス等と連携して効果的に取組みます

この基本的スタンス及びビジョンを内外で共有し、2012 シーズンは、ホームゲーム集客支援本部を中心に、「サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012」に取り組めます。

サガン鳥栖に対するこれからの支援の前提

サガン鳥栖に対する鳥栖市の支援は、プロサッカー誘致の取組から、悲願の J 1 ステージを実現した現在まで、大きく 3 つの段階に分けて考えることができると前述しました。

- 第 1 期 : J クラブ誘致のための基盤整備
- 第 2 期 : クラブ存続のために必要な直接支援（公金直接投入）
- 第 3 期 : J クラブ維持のために必要な間接支援（側面的支援）

これらのプロセスを踏まえ、これからのサガン鳥栖支援を考える場合、次の前提を踏まえた対応が必要であると考えます。

- 前提 1 : 2012 シーズンより、J 1 にカテゴライズされ、(株)サガン・ドリームスの運営費が大幅に増額されること。これに伴い、J 1 で安定的に活動することがサガン鳥栖の存在効果を最大限に発揮できる条件であること。(専用練習場及びクラブハウス等のハード面及び、クラブ経営をフォローする人的支援等)
- 前提 2 : J リーグが規定する「クラブライセンス」等への対応について、鳥栖スタジアム所有者としての対応が必要であること。クラブライセンスは時限的対応を迫られており、このライセンスを満たせない場合、J リーグから除名されるといった高いリスクがある。一方、平成 8 年 6 月完成の鳥栖スタジアムは、クラブライセンス対応のほか、相当のメンテナンスを必要とし、その投資額は相当程度となることが予想されるので、計画的及び年次的対応が必要であること。
- 前提 3 : 鳥栖市のサガン鳥栖支援の取組について、積極的な情報発信を行ってきた一方で、伝わり切れていないという事実を今一度認識するとともに、一方で、公平性や妥当性といった観点から鳥栖市が行う最適なサガン鳥栖支援を十分に精査する必要があること。

取組 1 鳥栖スタジアム改修事業

目的

鳥栖スタジアムが、クラブライセンス制度に対応できる環境を確保するとともに、国内における素晴らしいスタジアムと評価され続けることを目的に計画的な改修を図る。

目標

2012シーズン中に鳥栖スタジアム改修計画を策定することを目標とする

時期

2012シーズン中

取組 2 専用練習場及びクラブハウス整備事業

目的

サガン鳥栖が J1 で安定的に活動することがサガン鳥栖の存在効果を最大限に発揮できる条件であることから、練習環境の整備について計画的な整備を図る。

目標

2012シーズン中に専用練習場及びクラブハウス整備に着手を目標とする。

時期

2012シーズン中

取組3 鳥栖スタジアム収容人数拡大事業

目的

鳥栖スタジアムの有効活用を目的とし、入場者数の増加、J1ステージによるPR効果をさらに促進すること、また、クラブ収入安定化の強化を主な目的とする。

目標

2012シーズン中に検討

時期

2012シーズン中（1月～3月）

イメージ

鳥栖スタジアム、ホームゴール側、現在の観客席とゴールまでのスペースを有効活用する。具体的には、そのスペースに100席程度のパイプ席を設置し、お客さんに対しては臨場感の提供を、クラブに対しては新たな収入源として、鳥栖市は、鳥栖スタジアムの魅力充実といった効果が期待できる。



- ・ ラバー（茶色）のスペースに、パイプ席を設置し、収容人数を拡大
- ・ 相撲の「砂被り」と同じイメージ

取組 4 サガン鳥栖支援トップセールス事業

目的

J1昇格に伴う広告効果の向上及び市民機運の高まりを受けて、クラブ社長、市長等により、県内、筑後圏域の企業に対し、サガン鳥栖支援のトップセールスを行うことで、サガン鳥栖の経営安定化への呼び水とすることを目的とする。

目標

2012シーズン中に、県内、筑後圏域に約20社を目標とする。

時期

2012シーズン中

取組 5 クロスロード協議会・サガン鳥栖応援宣言事業

目的

筑後圏域に対し、まずは、各種市政施策で交流のあるクロスロード地域へ集客面を意識した連携の枠組みを構築することで、集客拡大を狙うとともに、サガン鳥栖を筑後圏域の宝であるといった意識づくりを行うことを目的とする。

目標

2012シーズン中のできるだけ早い時期に、クロスロード応援宣言を行う。

時期

2012シーズン中

イメージ

久留米市、小郡市、基山町及び鳥栖市が、(仮称)クロスロード・サガン鳥栖応援宣言を締結し、世の中にPRすることで、クロスロード全体でサガン鳥栖を応援する機運をつくってもらい、まずは、各市役所からサガン鳥栖の試合に来ていただくきっかけづくりを行う。

取組 6 サガン鳥栖効果調査事業

目的

J1昇格という契機を踏まえ、サガン鳥栖の存在が地域にもたらす効果について、定性的及び定量的な調査を行い、鳥栖市民をはじめ、サガン鳥栖に関わる全ての方々と共有することを目的とする。

目標

2012シーズン中に調査実施及び公表を行うことを目標とする。

時期

2012シーズン中

取組 7 サガン鳥栖関連シンポジウム事業

目的

J1昇格という契機を踏まえ、サガン鳥栖の存在が地域にもたらす効果を共有するとともに、鳥栖市が行うサガン鳥栖支援を知っていただき、かつ、支援の輪を広げることが目的とする。

目標

2012シーズン中に、シンポジウムを開催することを目標とする。

時期

2012シーズン中

取組 8 サガンエンブレム掲揚事業

目 的

平成 8 年の鳥栖スタジアム完成から、一定の期間を経て、多目的スタジアムでありながら、サガン鳥栖のホームスタジアムとして、市民の一定の理解を得られる現状となってきたことを踏まえ、また、J 1 昇格という機運の高まりといった追い風を受けて、鳥栖スタジアムにサガン鳥栖の大きなエンブレムを掲揚することにより、全国に鳥栖スタジアムの良さを発信するとともに、サガン鳥栖を大切にする気持ちをより理解して頂くことを目的とする。

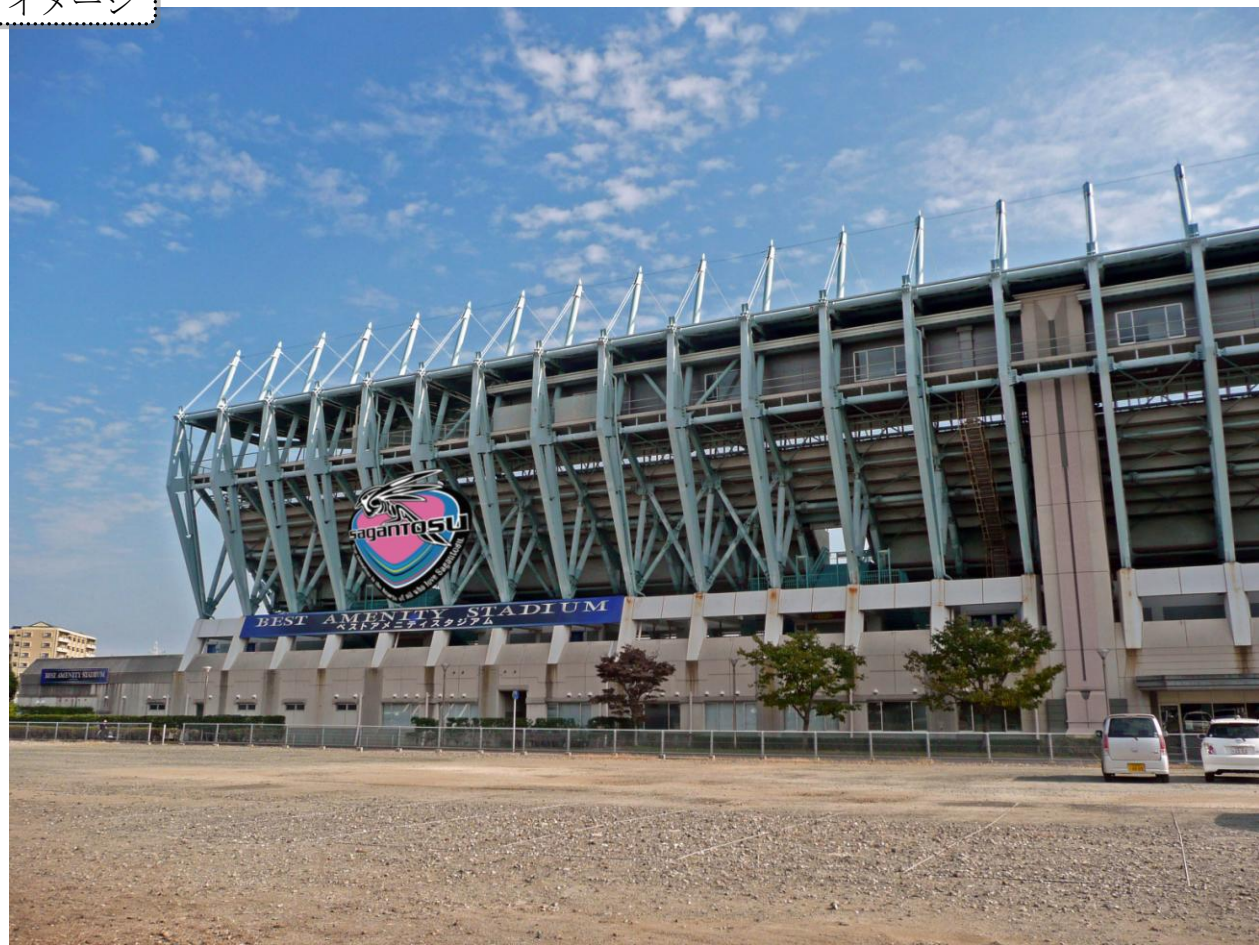
目 標

2012 シーズン中に仕組みづくりを行い、実施することを目標とする。

時 期

2012 シーズン中

イメージ



継続的サガン鳥栖支援

取組 9 市職員によるサガン鳥栖支援

目的

サガン鳥栖は、地域の宝であるとの認識のもと、市職員が率先してサガン鳥栖支援を行うことで、サガン鳥栖支援の輪が広がる呼び水となることを目的とする。

目標

- ◇ 年間チケット購入（前年並み）
- ◇ 市職員応援デーへの参加（前年並み）
- ◇ 管理職等による街頭 PR（2回以上）

取組 10 新規採用職員によるサガン鳥栖支援

目的

新規採用職員が、サガン鳥栖を地域の宝であると認識する機会を設けるとともに、新規採用職員の立場から率先してサガン鳥栖支援を行うことで、庁内の支援気運をボトムアップで高めることを目的とする。

目標

- ◇ 新たなサガン鳥栖支援の検討及び実施
- ◇ 鳥栖市公式ホームページ「サガン鳥栖」サイトの更新等

取組 11 地域交流推進事業及びネーミングライツ企業特典事業

目的

主に集客に関するサガン鳥栖支援の取組を効果的かつ効率的に行うことで、サガン鳥栖支援の輪が広がることの呼び水とすることを目的とする。

目標

- ◇ 地域交流推進事業の効果的取組み
- ◇ ネーミングライツ企業特典事業の効果的取組み

取組 12 ㈱サガン・ドリーム及び(財)鳥栖市地域振興財団との連携事業

目 的

サガン鳥栖の直接的な関係者が共通認識をもってサガン鳥栖支援に関する課題解決にあたり、より効果的なサガン鳥栖支援を行うことを目的とする。

目 標

◇ サガン鳥栖支援連絡調整会議による課題解決

取組 13 佐賀県プロサッカー振興協議会との連携事業

目 的

サガン鳥栖支援を主な目的とする佐賀県プロサッカー振興協議会と支援の取組を共有することで、より質の高い取組の創出を行うとともに、効果的な支援の展開を図ることを目的とする。

目 標

◇ 地域交流事業 ◇ 広報活動事業 ◇ 集客支援事業

取組 14 九州Jリーグホームタウンとの連携事業

目 的

Jリーグがある九州のホームタウンと手を取り合って情報共有を図るとともに、具体的な取組を行うことで、九州全体の活性化を図ることを目的とする。

目 標

◇ 九州Jリーグホームタウン連携会議による情報共有及び具体的取組の実施
◇ 九州だJ!との連携

- ◇ この「サガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012」を、本市が行なうサガン鳥栖支援の基本とします
- ◇ ホームゲーム集客支援本部は、目的達成のため『年間シート等のチケット購入斡旋』、『集客に関する事務』の2つの取組を、本プランの進行管理によって行います
- ◇ ホームゲーム集客支援本部は、原則、11月、2月、5月、8月を定期開催月とします
- ◇ 必要に応じて、本部長召集による緊急開催があります
- ◇ このサガン鳥栖支援アクションプラン Ver.2012 は、常に見直しを行い、シーズン毎に改訂していきます。Ver は、そのシーズンを指します
- ◇ ホームゲーム集客支援本部の事務局である総合政策課は、取組みの成果と課題を常に明らかにし、最も有益で、かつ最小限の情報を、ホームゲーム集客支援本部に報告します
- ◇ 取組みの成果等は、鳥栖市公式ホームページで公表します
- ◇ サガン鳥栖支援に関する重要な関係者とは、常に連絡を密にし、課題解決に向けた最善の連携を図ります